

## 発 言 通 告 書

発言者氏名	井坂 直
発言の会議	平成30年 8月31日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長、上下水道局長

### 【件名及び発言の要旨】

#### 1 熱中症予防策について

- (1) 気象庁は7月が30年に1度の異常気象であったと述べ、「起こるはずのないことが起こったわけではない。地球温暖化が進行し、大雨や顕著な高温が長期的にふえている。将来もふえると予想されている」と説明した。この夏の異常な暑さが市民生活にどのような影響を与えたとお考えか、市長に伺う。
- (2) 地球温暖化防止と熱中症対策につながるクールシェアに本市も取り組む必要性について、市長に伺う。

#### 2 国が進めようとする上下水道事業の民営化について

- (1) 先の国会に、水道事業の運営に民間企業の参入を促進するための水道法改正案が再提出された。上下水道事業が危機的な状況に陥ってしまった分析と反省がないまま、民営化を進める動きに対して市長、上下水道局長はどのようにお考えか。
- (2) 民間事業者が水道経営権を獲得する方法、いわゆるコンセッション方式を計画した自治体がある中、次期「水道事業・下水道事業マスタープラン」の検討がこれから進められる。民営化

における問題点について、市長の認識を伺う。

- (3) 起伏の多い本市の地理や地質の知見がある地元業者とともに協力・連携して上下水道事業を進める必要性及び今後の方向性について、市長に伺う。

### 3 原子力災害対策について

- (1) 8月だけで原子力艦の入出港は10回あった。報道では台風の影響を避けるためではないかとの推測もあるが、入出港が多い正確な理由について、外務省を通じて求めるべきではないか、市長に伺う。
- (2) 原子力規制庁が所管している原子力艦用の放射能測定モニタリングポストは横須賀港に10カ所ある。楠ヶ浦局の3号モニタリングポストは2017年2月より測定を停止して1年半がたつ。この状態を市長はどのようにお考えか、伺う。
- (3) これから台風到来の季節を迎えるが、原子力艦が頻繁に入出港を繰り返すことは、市民及び自治体にとって負担と心配が増すのではないか、市長に伺う。

### 4 横須賀火力発電所建設計画について

- (1) 環境省は、日本も気候変動により今世紀末には現在よりも年平均気温が高くなると予想している。温室効果ガス削減は喫緊の課題であることは明らかであり、本市の「低炭素で持続可能なよこすか戦略プラン（2011～2021）」に基づく取り組みを確実に進めるべきであるが、市長のお考えを伺う。
- (2) 環境大臣は、「本事業の追加的な二酸化炭素排出量は年間726万トン程度にも及ぶことから、環境保全面から極めて高い事業リスクを伴うもの」と指摘し、「排出削減の取り組みへの対応の道筋が描けない場合には、事業実施を再検討することを含め、あらゆる選択肢を勘案して検討することが重要である」と述べている。この環境大臣の意見を市長はどのように受けとめたのか。

- (3) 最新鋭の設備を設置すると事業者は説明しているが、脱硫工程にて二酸化炭素が発生する方式を選択した。できるだけ二酸化炭素を減らすよう要望している市長、神奈川県知事及び環境大臣の意見と乖離しており、認めることはできないと考えるが市長のお考えを伺う。